

## スカウトたちと真剣に関われてうれしかった

私は、カブ隊の夏舎営で、徐々に大きくなる18人のスカウトたちの苛立ちを、爆発する寸前で止めることになった体験についてお話しします。阪田副長、内賀嶋隊長、吉田隊長が、しかスカウトの時のことです。

3日目夜のリーダー会議で、私は副長たちにお願ひしました。「皆さん、困った状況になりました。スカウトたちの『カブ太郎』に会いたい気持ちが強くなり、会わせないといけないと思います。明日の最終日しかチャンスはありません。どうすればスカウトたちが納得するかを考えてください」と。

舎営の前「カブ太郎」から招待状が届きました。そして、開会儀礼や朝礼で、カブ太郎からの「待っている」、「明日は会える」などのメッセージが読まれますが、カブ太郎は一向に姿を現しません。リーダーの最初の計画では、来年まで出てこないことになっていました。現実には誰かという想定も準備もしていなかったのです。

3日目、鉢伏山の頂上で待っているといていたカブ太郎は、スカウトたちを裏切る形で氷ノ山に出かけたと言を残しました。舎営後の感想文にスカウト達の憤懣やるかたない思いが述べられています。

- ・(え!!カブ太郎がいない?いままでの苦労はなんだったのよー\*\*会ったらしばいてやるからな\*\*。)と私はストレスが50%以上溜まったくらいむかつかしました。
- ・「カブ太郎のばかー」と他の山に叫びました。
- ・次の日は、山に行ったけど、カブ太郎はいなかった。鉢伏山のとっぺんの手紙で氷ノ山に行ったと書いてあって、みんな怒って明日会ったら、しばくと言っている人もいた。
- ・頂上に着いたときは、うれしかったです。でも、カブ太郎に会えなくて、とても残念でした。
- ・ぼくは山登りの時、一生懸命登ったのにカブ太郎がいなかったのも、すごくむかつかしました。ぼくは心の中で「カブ太郎覚悟しとけよ」と思いました。

スカウトたちの雰囲気は、「カブ太郎」と会える楽しみ、期待が日に日に大きくなっていました。私は、明日こそは「カブ太郎」が登場しないといけないと思ひました。「カブ太郎」は、毎回スカウトを裏切った結果になっていました。スカウトたちの会えないことへの不満が爆発しそうになっています。私たちリーダーは、計画を変更してスカウトの気持ちが治まる対処に迫られました。スカウトたち全員の気持ちが一緒になっていることは、リーダー冥利に尽きるけれど、それは後で考えたことです。その会議の場では、困り果ててしまいました。

スカウトたちの気持と真剣に向かい合いました。シナリオの考えとは想定外の雰囲気に

なっていました。どなたを「カブ太郎」にするのか、スカウトの気持ちを受けとめるように、納得のいく流れで「カブ太郎」を登場させるように考えよう。時間を掛けて、私たちは考えに考えました。結果は、仕事でなかなか顔を出せなかった福屋のおじさんに「カブ太郎」になってもらうことをお願いしました。

翌朝、私はスカウトたちに「カブ太郎は誰でしょう」と聞きました。「健太郎リーダー」、「福屋のおじさん」、「隊長」と返事がありました。私は、「カブ太郎は福屋のおじさんです」と明かしました。

- ・え〜うそ！！あんなこと言っちゃった。
- ・色々やってくれたから、ぼくは全然怒らなくなった。
- ・カブ太郎が福屋のおじさんだと聞いてびっくりしました。

福屋のおじさんは、みんながとても感謝している人でした。スカウトたちが、それぞれに納得してくれて、リーダーたちは胸を撫で降ろしました。

スカウトの気持ちは、状況に合わせて自然に変化しているのでしょうか。真剣に、素直に感じた気持ちをぶつけてきます。私たちは、大いに反省し、この体験をさせてもらったことをありがたく思いました。